

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 秋田県教育委員会
 所 在 地 秋田県秋田市山王三丁目1-1
 代 表 者 職 氏 名 教育長 米田 進

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	あきたけんりつゆりこうとうがっこう	ふりがな	えちごや しんえつ
学校名	秋田県立由利高等学校	校長名	越後谷 真悦
ふりがな	ゆりほんじょうしりつゆりちゅうがっこう	ふりがな	すだ こうじ
学校名	由利本荘市立由利中学校	校長名	須田 晃司
ふりがな	ゆりほんじょうしりつゆりしょうがっこう	ふりがな	さとう きよかず
学校名	由利本荘市立由利小学校	校長名	佐藤 清和

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

児童生徒の英語コミュニケーション能力の育成を目的とした、小・中・高一貫した系統的な指導方法及びそのための教育課程編成、教材及び評価方法の開発

(2) 研究の概要

小学校から中学校、高等学校の英語学習を通して、4技能をバランスよく身に付け、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる人材の育成を目指す。そのため、小・中・高で設定している学習到達目標リスト(CAN-DO形式)の活用と改善を図りながら、学びの円滑な接続の在り方について研究する。

小学校中学年では活動型、高学年では教科型の教育課程を編成し、小の学びを踏まえた中・高における指導方法の在り方、児童生徒の発達段階を踏まえた適切な教材の選択と開発、また、信頼性と妥当性のある4技能の総合的な評価方法の開発により、児童生徒一人一人のコミュニケーション能力の伸長を図る。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

平成26年度、本事業の強化地域として、由利本荘市の由利小学校・由利中学校・由利高等学校が研究校として指定された。

由利小学校においては、3・4・5年生は週1コマの外国語活動、6年生は週1コマの教科型を試みた。平成16年の開校以来、全校で朝の英語活動「エンジョイ・イングリッシュ」（週1回15～20分程度）に取り組んでいることもあり、英語を学ぶことに対して抵抗感をもつ児童はほとんどいない。そのため、3年生から開始した外国語活動の学習においても、話したり聞いたりする活動に児童は非常に意欲的である。6年生は初めての教科型の学習で、書くことや読むことにも挑戦したが、前年度までの外国語活動での学習の積み重ねやフォニックスを取り入れた学習の効果もあり、ALTによって読まれる簡単な語句を聞き取って正確に単語を書いたり、3～5語程度の英文の意味を理解したりすることができるようになってきている。

由利中学校においては、全校生徒の80%以上が「英語の学習が好きだ」と回答し、ほぼ全員が外国語を学ぶ必要性を強く感じている。生徒はALTや外国人講師が話す英語を聞き取ったり、自分のことや身近なもの・ことについて英語で伝えたりする活動に大変意欲的に取り組んでおり、教師のオールイングリッシュによる授業にも抵抗はない。由利中学校区には由利小学校1校であり、距離も近いことから、相互交流や連携も活発に行われている。

由利高等学校においては、「授業は英語で行うことを基本とする」ことを踏まえた、生徒の英語による言語活動を中心に据えた授業の充実を図っている。また、小・中学校の授業参観及び研究協議会等への参加を通して、他校種で行われている指導や評価、使用されている教材等について理解を深め、中・高の円滑な接続に努めている。

一方で、本地域の課題として、英語で自分の思いや考えを相手に伝わるように工夫して話すことや情報交換、討論などでの深まりに欠くことが挙げられる。

このような現状や課題を踏まえ、児童生徒の英語コミュニケーション能力を育成していくためには、小・中・高一貫した系統的な指導を行うなど、地域の学校が一体となった取組が必要不可欠であると考え。小・中・高連携の更なる強化を図り、具体的な実践研究を行うことで、4技能をバランスよく身に付け、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる人材の育成を目指していく。

②研究仮説

英語で自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫、適切な教材の選択と開発、児童生徒の学ぶ意欲につながる適切な評価方法の開発など、小・中・高が一体となった取組を推進していくことで、児童生徒のコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。

小学校3・4年生においては、週1コマの外国語活動を設定する。初めての外国語活動となるため、児童の実態や発達段階に応じた教材を開発し、ALT等とのきめ細やかな指導を展開していくことで、児童の負担を軽減しながら、自然に外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることができると考える。小学校5・6年においては、教科型の英語の時間を設定する（コマ数については(4)を参照）。小学校3・4年生で身に付けたコミュニケーション能力の素地を踏まえ、段階的に文字やフォニックスの学習を行うことで、読むことや書くことに対する興味・関心の高まりが期待でき、中学入学後の文字に対する抵抗感や不安感を軽減することができると考え

る。

中学校においては、小学校における学習到達目標リスト（CAN-DO形式）と系統性をもたせた言語活動の具体化を図り、実践を重ねていくことで、自分の思いや願いを自分の言葉で伝える力の伸長を図ることができると思う。また、オールイングリッシュによる授業を基本とし、ALTや英語教員同士のTTの在り方を工夫したり、生徒一人一人にきめ細やかな支援をしたりすることで、間違いを恐れずに英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができると思う。

高等学校においては、小・中学校での学びを踏まえた学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を設定し、中学校と連携した段階的な指導を行うことで、ふるさと秋田の魅力を英語で発信したり、英語による討論や交渉をしたりする力を身に付けることができると思う。

また、本強化地域の特徴的な取組として、様々な国籍の留学生が在籍する国際教養大学との交流があるが、そのねらいを明確にし、活動を一層充実させていくことで、児童生徒にコミュニケーションの楽しさや喜びを更に味わわせることができるものと思う。

③研究成果の評価方法

児童生徒の変容を教師の形成的評価・総括的評価・学習者自身による自己評価の三つの評価から見取る。全児童生徒を対象とする「外国語活動（英語）実態調査（アンケート）」等を実施し、個々の変容や学校全体の実態把握に努める。調査は年3回実施し、児童生徒による自己評価と教員による評価を分析・検証し、評価方法の改善に生かしていく。

小学校3・4年生においては、授業中の観察や自己評価カードの分析を中心に評価する。小学校5・6年生や中学校においては、授業中の観察等に加え、CAN-DO形式の学習到達目標リストや県学習状況調査（中学校）等の結果を活用するとともに、パフォーマンステストを年間指導計画に適切に位置付けて評価する。高等学校においては、中学校と同様にCAN-DO形式の学習到達目標リストを活用するとともに、パフォーマンステストを年間指導計画に適切に位置付けて評価する。また、中学校及び高等学校においては、実用英語技能検定試験などの外部検定試験の結果を分析し、指導に生かしていく。

（4）研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次（H26）	第二年次（H27）	第三年次（H28）	第四年次（H29）
① 小学校 外国語活動型	第3・4・5学年 1コマ	第3・4学年 1コマ	第3・4学年 1コマ	第3・4学年 1コマ
② 小学校 教科型	第6学年 1コマ	第5学年 1学期1コマ 2学期2コマ 3学期2コマ 第6学年 1コマ	第5・6学年 2コマ	第5・6学年 2コマ

(5) 研究計画

【由利小学校】

- 第一年次
- 中学年における外国語活動の年間指導計画の作成と実践
 - 中学年及び5年生における外国語活動の実施と6年生における教科型の実施
 - 児童の発達の段階に即した初年度の6年生における教科型の年間指導計画の作成と実践
 - 中学年における外国語活動の題材や教材の開発
 - 6年生における教科型の4技能を統合した学習題材、教材の開発
 - 児童の発達段階に即した4技能の評価の在り方の研究（評価内容、評価方法等）
 - 小・中連携を踏まえた教科型の学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の作成
 - 業間活動を活用した英語に親しむ時間の充実（全学年：週15分1回から暫時増加）
 - ALTや外部講師の効果的な活用
 - 地域人材の掘り起こしと活用
 - 国際教養大学留学生等との交流学习の推進
 - 外部講師による教職員の英語指導に関する実技研修

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

- 中学年における外国語活動の教材の開発

昨年度の使用教材（Hi, friends!、市販教材、自作教材）の全体的な見直しを行った。本年度から、中・高学年においてはオールイングリッシュで授業を進めることを基本としており、簡潔な指示で活動の内容がわかるという視点も含めて見直しを進めた。

学級担任（以下、HRT）がオールイングリッシュで授業を進めることについては、児童の英語でコミュニケーションをしたいという意欲の向上につながっている。
- 中学年における外国語活動の年間指導計画の見直しと活用

昨年度と同様に週1コマの外国語活動を実施した。昨年度の課題として、単位時間において提示する英文が多いことなどが挙げられたため、学年間の系統性に配慮し、高学年における教科型の授業に向けた基礎づくりができるよう年間指導計画の見直しを行った。
- 高学年における教科型の年間指導計画の作成・見直しと活用

本時の授業で「何ができるようになるのか」を明確にし、児童が見通しをもって授業に臨むことができるよう年間指導計画の見直しを行った。HRTとALTとの英語によるデモンストレーション等を取り入れた学習展開及びまとめ・振り返りの時間を十分に確保することを念頭において作成したことにより、主体的に学習に取り組む姿勢が育まれ、積極的に英語によるコミュニケーションを楽しもうとする児童が増えてきた。

○小・中連携を踏まえた教科型の学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直しと活用

強化地域の英語担当者会議を開催し、授業における具体的な連携について協議した。小・中の学習到達目標リスト（CAN-DO形式）については、小・中一体型のリストに改訂し、平成28年1月の完成を目指して現在作成を進めている。

○高学年における教科型の教材開発及び補助教材の活用

5・6年生については、平成28年度より年間70時間（週2コマ）の教科型授業を予定している。本年度は試行的な取組として、学級全体として英語学習への関心・意欲が高く、英語を書くことに対する抵抗感も低い5年生において、2学期以降週2コマの教科型授業を実施した。

教材は、Hi, friends!の児童用テキスト・デジタル教材、文部科学省配付の補助教材、自作のワークシート、市販の絵本や絵カード等を使用した。「日本文化の紹介」や「家族の紹介」等の学習を通し、かなりの数の英語を読んだり、書いたりすることができるようになってきている。

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる授業づくり

コミュニケーションへの積極的な態度を育成するために、児童が必要感や達成感をもてる授業づくりを心がけている。HRTやALT等が児童の発表や学習成果に対して褒めたり認めたりすることはもちろんであるが、児童同士の発話や表現に対して反応したり肯定的な評価をしたりするよう継続した指導を行っている。

○児童の発達段階に即した評価の在り方の研究（評価内容、評価方法等）

高学年の教科化に伴い、中学年の題材配当も引き上げられる形で動いており、発達段階に応じた評価の在り方に関しては研究の途上である。

中・高学年とも文章記述による評価を行っている。

○学年の活動や学習内容と関連した業間活動の効果的な活用（全学年：週15分1回から暫時増加）

毎週金曜日の8:00～8:23を英語短時間学習として設定している（1/2単位時間）。1～4年生は身体の部位やあいさつ等の身近な語句や表現に慣れることをねらいとしたゲームやチャンツ、5・6年生はアルファベットの読み書きや家族紹介文の作成等、書くことに関する内容を中心に行っている。

授業の充実に向けた内容を扱うことにより「できた」「わかった」などといった達成感を児童一人一人が実感できるようになってきており、また、目的意識をもった活動により主体的な学びの様子が見られるようになってきている。

○ALTや外部講師の効果的な活用

4～6年生の授業は、HRT、ALT、サポーター（地域の人材で元ALT）、教頭、研究主任の5人体制、3年生は研究主任を除く4人体制で行っている。「書くこ

と」にも積極的に取り組んでいるため、苦手意識をもつ児童が出ないように学習の見取りを充実させたいとのねらいからである。

また、5年生が2学期から週2コマに授業時数を増やすにあたり、市教育委員会の英語担当指導主事が授業づくりに参加した。指導案の作成やクラスルームイングリッシュの精選、本時のねらいに迫るための導入の工夫などについて助言を受けた。その結果、HRTが自信をもってオールイングリッシュで授業を展開できるようになり、また、学習シートの作成や教材の提示の仕方についてもスキルアップすることができた。

○国際教養大学留学生等との交流学习の推進

国際教養大学留学生との交流は平成21年度から実施しており、本年度も6月に6年生、11月に5年生において実施した。留学生の英語を聞き取るだけでなく、簡単な表現を用いて反応するなど積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿が多く見られた。児童たちは留学生と英語でコミュニケーションを成立させることにより自信を深め、「もっと話せるようになりたい」と意欲を高めている。

○外部講師による教職員の英語指導に関する実技研修

研究主任が6月と10月に各1週間、英語教育推進リーダー中央研修に参加した。また、英語担当主任が8月に行われた小学校外国語活動教員研修事業（県教育委員会主催の5日間の集中研修）に参加した。同じく8月に、小学校教員を対象とした英語授業カブラッシュアップ研修（国際教養大学主催）に3名の職員が参加した。それぞれの研修で学んだことを全員で共有することにより、学校全体として外国語活動・英語科の指導方法について研修を深めることができた。

○公開研究会等による成果の普及（県内の全小・中学校に案内を送付し周知を図る）

10月に公開研究会を実施した（4年生の外国語活動、5年生の英語科）。県内及び由利本荘市と交流のある大阪府箕面市から多くの参加があった。その後、由利小学校の指導案をモデルとした研究授業が他校を会場に行われるなど、研究の成果を広く発信することができた。

○研究の進捗状況については、随時学校ホームページ等で発信

研究の進捗状況（来年度に使用する予定の年間指導計画等も含む）については、3学期に由利小学校のホームページに掲載する予定である。平成28年度においては随時更新していく。

○小・中合同の英語指導に関する研修会の実施

夏季休業中に市教育委員会の英語担当指導主事を招聘し、小学校全教員と中学校英語科の教員を対象とした研修会を実施した。中学校英語教員の指導法等、大変参考になった。また、冬季休業中には、国際教養大学教員（運営指導委員）を招聘し、小・中学校合同で研修会を実施した。

○小・中合同の授業相互参観及び指導案検討会の実施

小・中の授業研究会においては、できる限り多くの教員が相互に参観できるよう日程等の調整を行った。また、指導案検討会を小・中合同で行ったことにより、計画及び指導の両面で系統性が図られた。

○中学校英語科教員とのチームティーチングや中学生との交流授業の実施

小学校への中学校教員による乗り入れ授業や中学生を招いての交流授業を行った。小学生は中学生を最も身近な望ましい学習者のモデルとして捉え、学習意欲の向上や学び方についても得るところが多かった。

○中学生による英語絵本の読み聞かせを通した「読むこと」への興味・関心の喚起

6年生が下学年に絵本の読み聞かせを行った。5年生からは自分たちも読み聞かせを行ってみたいという感想が多く見られた。

中学生による英語絵本の読み聞かせについては、3学期に実施できないか検討中である。

第三年次 ○小・中連携を踏まえた教科型の学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直しと活用

○高学年における教科型の教材開発及び補助教材の活用

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる授業づくり

○小学校における学習スタイルの構築と検証

○児童の発達段階に即した評価の在り方の研究（評価内容、評価方法等）

○学年の活動や学習内容と関連した業間活動の効果的な活用

○ALTや外部講師の効果的な活用

○国際教養大学留学生等との交流学习の推進

○公開研究会等による成果の普及

第四年次 ○小・中・高10年間の英語教育を見通した小学校の学習内容の検証

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる授業づくり

○小学校における学習スタイルの構築と検証

○児童の発達段階に即した評価の在り方のまとめ

○学年の活動や学習内容と関連した業間活動の効果的な活用

○国際教養大学留学生等との交流学习の推進

○ALTや外部講師の効果的な活用

○公開研究会等による成果の普及

○4年間の取組の検証と冊子の作成

【由利中学校】

第一年次 ○年間指導計画と学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直し

○小・中の接続を踏まえた学習題材、教材の開発と実践

○生徒の英語に対する意識調査及び分析

- ティームティーチングを活用した授業実践
- ALT及び外国人講師の効果的な活用とICT化の推進
- 外部検定試験受験結果の検証と活用
- 秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用
- 由利高校国際科や国際教養大学留学生等との交流学习の推進

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直しと活用

小・中の学習到達目標リスト（CAN-DO形式）については、小・中一体型のリストに改訂する予定で、平成28年1月の完成を目指している。

年間指導計画については、小学校での学習内容を踏まえ、既習の表現や語彙を発展的な形で示していくことが必要である。現6年生が中学校の学習にスムーズに移行できるような指導計画を作成中であり、今年度中に完成する予定である。
- 4技能を統合した学習題材、教材の開発と実践

由利中学校はNIE実践指定校として新聞を教科・領域で活用する取り組みを進めており、英語科においても実践している。3年生では英語で書かれた短い記事を読んでわかったことを英語で書く活動を行ったり、2・3年生では取材したことを基に英字新聞を作成したりするなどした。完成した英字新聞を用いて発表し合い、意見や活動を述べ合う活動は4技能を統合したインタラクティブな活動であり、新たな教材として成果を感じることができた。
- 生徒の英語に対する意識調査及び分析

1月に実施した意識調査では「英語学習が好きだ・楽しい」と回答した生徒が1年生66%、2年生88%、3年生98%となっており、学年が上がるにつれて学習意欲が高まっている。特に3年生においては、昨年度に比べ伸びが顕著である（2年生時63.4%）。生徒の記述を分析すると、オールイングリッシュによる授業展開や新聞を用いた発信型の授業の成果が学習意欲の向上に結び付いていると考えられる。1年生においても、ジェスチャー等を用いながら積極的に英語で表現する活動や、生徒同士が英語で伝え合う活動を一層増やしていくように工夫していきたい。

また、朝と昼の校内放送を英語と日本語で行うなど、英語に触れる環境を増やしていることも数値が高い一因になっている。
- ティームティーチングを活用した授業実践

今年度は英語専科教員によるティームティーチングが可能となり、英語によるモデル演示が十分にできている。教員の提示したモデルが1時間の学習のゴールとなることを意識しながら授業作りを進めている。また、教師間で分担して机間指導することにより、個に応じた支援の充実が図られている。

○A L T及び外国人講師の効果的な活用とI C T化の推進

A L Tコーナーを廊下に設けて外国の文化を紹介するなど、授業内外で英語を学ぶ雰囲気が高めることができている。I C T化の推進については、タブレット端末の活用を検討中であり、生徒による言語活動の更なる充実について研究を進めていきたい。

○外部検定試験受験結果の検証と活用

年3回の英語検定を奨励しており、生徒は積極的に受験している（中学3年生全員については、1回分を県費で受験できる）。課題が見られる問題については、長期休業中の学習会等において補充学習を行ったり、放課後に英検対策学習会を実施したりして、リスニング、筆記試験ともにレディネスを高めた上での受験ができるようにしている。

○秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用

A L Tと一対で行う形式、または英語教員と一対で行う形式により実施している。各学年ともA L Tと共通理解を図り、効果的な実施方法や事後指導にも配慮しながら行っている。

物怖じせず自分の気持ちや考えを伝えたり、休み時間にA L Tと会話を楽しんだりする生徒が昨年度と比べ増えてきており、話すことへの意欲の高まりが感じられる。

○由利高校国際科や国際教養大学留学生等との交流学习の推進

6月の校内英語暗唱弁論大会では、国際教養大学の留学生に審査と交流会の担当を依頼した。来年度も継続し、全校生徒が留学生と一層豊かなコミュニケーション活動を行えるように更なる工夫をしていきたい。

1・2月には国際教養大学を訪問し、英字新聞を用いたプレゼンテーションを行い、英語で質疑応答を行う交流授業を計画している。

○公開研究会等による成果の普及（県内の全小・中学校に案内を送付し周知を図る）

11月に2年生の授業を公開した。県内の小・中学校及び高校から多くの参加があり、忌憚のない意見をいただいた。特に、N I Eの実践に関連付けた授業提示が新たな教材開発として有効であった。

○研究の進捗状況については、随時学校ホームページ等で発信

随時、由利中学校のホームページで発信しており、今後も継続していく。

○小・中合同の英語指導に関する研修会の実施

夏季休業中と冬季休業中に、市教育委員会の英語担当指導主事と国際教養大学教員（運営指導委員）を講師とした研修会に小・中合同で参加した。

○小・中合同の授業相互参観及び指導案検討会の実施

今年度は計4回授業研究会を行い、全ての授業について相互参観する機会を設けた。また、事前の指導案検討も小・中合同で行い、研究推進を図ることができた。

○小学生との交流授業及び英語科教員による小学校への出前授業の実施

7月の校内英語暗唱弁論大会は小学生も参観した。また、2月には中学校教員による出前授業を行い、円滑に中学校の学習に入ることができるように工夫していきたい。

小学校と中学校は隣接しており、交流がしやすいことから、今後も相互交流が図れる企画を考えていきたい。

○小学生への絵本の読み聞かせの実施

由利小学校では多数の英語図書を入庫している。3学期に、これらの英語の絵本を中学生が小学生に読み聞かせすることで交流が図れないか検討中である。

第三年次 ○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直しと活用

- 4技能を統合した学習題材、教材の開発と授業実践
- 生徒の英語に対する意識調査及び分析
- チームティーチングを活用した授業実践
- ALT及び外国人講師の効果的な活用とICT化の推進
- 外部検定試験受験結果の検証と活用
- 秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用
- 由利高校国際科や国際教養大学留学生等との交流学习の推進
- 公開研究会等による成果の普及

第四年次 ○4技能を統合した学習題材、教材の開発と授業実践

- 生徒の英語に対する意識調査及び分析
- チームティーチングを活用した授業実践
- ALT及び外国人講師の効果的な活用とICT化の推進
- 外部検定試験受験結果の検証と活用
- 秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用
- 由利高校国際科や国際教養大学留学生等との交流学习の推進
- 公開研究会等による成果の普及
- 4年間の取組の検証と冊子の作成

【由利高等学校】

第一年次 ○小学校及び中学校との連携による10年間を見通した目標設定及び教材開発

- 外部検定試験受験結果の検証と活用
- スピーキングテストの実施及びその検証と活用
- 年間指導計画と学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の見直し
- 国際教養大学留学生等との交流学习の推進

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の「話すこと」の能力記述文に「ディスカッション」あるいは「即興で話すこと」を設定

「即興で」という文言を全学年の「話すこと」の能力記述文中に設定し、授業の中で実践してきた。今年度のスピーキングテストを通じて、生徒の達成度について調査していく。
- 外部検定試験受験結果の検証と活用

英語検定の受験を奨励している。1年生は第3回英語検定を全員受験することにしており、2年生は11月の英検I B Aが第3回英語検定の受験に対する意欲向上につながっている。一次試験と二次試験の結果を分析し、今後の指導に反映させたい。
- スピーキングテストの実施及びその検証と活用

1・2年生は、コミュニケーション英語の授業において身近な話題についてのスピーチを実施した。また、2年生はALTとの一対一でのインタビューテストも実施し、3分程度の会話の中で将来の夢や修学旅行の思い出等についてのやりとりを行った。人前で自己表現しようとする意欲は昨年度より確実に向上している。
- 国際教養大学留学生等との交流学习の推進

平成28年2月に実施予定であり、留学生との交流や授業体験等、異文化理解や英語運用能力の育成を主眼に活動を行う。

- 第三年次
- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の「話すこと」の能力記述文に「ディベート」あるいは「ディスカッション」を設定
 - 外部検定試験受験結果の検証と活用
 - スピーキングテストの実施及びその検証と活用
 - 国際教養大学留学生等との交流学习の推進
 - 公開研究会等による成果の普及
- 第四年次
- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）の「話すこと」の能力記述文に「ディベート」あるいは「ディスカッション」を設定
 - 外部検定試験受験結果の検証と活用
 - スピーキングテストの実施及びその検証と活用
 - 国際教養大学留学生等との交流学习の推進
 - 公開研究会等による成果の普及
 - 4年間の取組の検証

(6) 評価計画

【由利小学校】

- 第一年次
- 児童の意識調査及び教師による評価の実施（学期ごと）
 - 研究授業の実施（研究授業7月、10月）
 - 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）
 - パフォーマンステスト等を活用した評価の実施（学期ごと）
 - 近隣校や保護者への授業公開（10月）
 - 保護者へのアンケート調査の実施（2月）

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

- 児童の意識調査及び授業評価の実施（学期ごと）

意識調査及び授業評価は、学期末に1回ずつ行っている。学習意欲に関しては、昨年度と同様に各学年ともほぼ100%の児童が「外国語活動（英語）の学習はとても楽しい・楽しい」と回答している。

「楽しいこと・心に残ったこと」に対する回答では、低・中学年では「ゲーム」や「新しい表現を覚えて言えたとき」などが多かったが、高学年では「ALTや留学生の話す英語が理解できたり、自分が話した英語が相手に伝わったりしたとき」などコミュニケーションの成立に達成感を感じている回答が多かった。
- 研究授業の実施とチームティーチング授業の評価（研究授業7月）

7月の研究授業では、6年生がアメリカの小学生と交流するためのビデオ作りに向けた授業を行った。HRTはオールイングリッシュで授業を進め、ALTやサポーター等との連携もよく取れていた。また、指導者一人一人がそれぞれ担当する児童の学習を見取り、本時のねらいに迫ることができた。
- 交流学习の実践とその活動の評価（学期ごと）

6月に6年生、11月に5年生が国際教養大学留学生と交流した。児童の感想には、英語でのコミュニケーションが成立したことによる達成感や自信の深まりについて書かれたものが多かった。交流の際に使用したシートや振り返りカードに対して、児童の意欲が高まるような肯定的な評価を行った。
- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）
- パフォーマンステスト等を活用した評価の実施（学期ごと）

学習到達目標リスト（CAN-DO形式）は作成済みであるが、それを基にした評価やパフォーマンステスト等を活用した評価の実施に関しては来年度の課題である。
- 近隣校や保護者等への授業公開（10月）

10月に公開研究会を実施（4年生の外国語活動、5年生の英語科）し、県内及び由利本荘市と交流のある大阪府箕面市から多くの参加があった。授業の構想や展開、研究の方向性については肯定的な意見が多く、他地域における授業研究会でも研究の成果を発信することができた。

保護者等への公開については、7月のPTA授業参観や9月の和文化教育全国大会で行った。児童の学習の様子に対する好意的な反応が多く寄せられた。

○保護者へのアンケート調査の実施（2月）

保護者には、4月のPTA総会で本事業の趣旨や英語教育の推進について説明する場を設けた。アンケートは平成28年2月に実施予定である。

第三年次 ○児童の意識調査及び授業評価の実施（学期ごと）

○研究授業の実施とティームティーチング授業の評価（研究授業7月）

○交流学习の実践とその活動の評価（学期ごと）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

○パフォーマンステスト等を活用した評価の実施（学期ごと）

○近隣校や保護者等への授業公開（10月）

○保護者へのアンケート調査の実施（2月）

第四年次 ○児童の意識調査及び授業評価の実施（学期ごと）

○研究授業の実施とティームティーチング授業の評価（研究授業7月）

○交流学习の実践とその活動の評価（学期ごと）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

○パフォーマンステスト等を活用した評価の実施（学期ごと）

○近隣校や保護者等への授業公開（10月）

○保護者へのアンケート調査の実施（2月）

【由利中学校】

第一年次 ○生徒の意識調査及び生徒による授業評価の実施（学期ごと）

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

○秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用（9月、2月）

○定期テスト、パフォーマンステスト、県学習状況調査等の結果の検証と活用（学期ごと／県学習状況調査12月）

○研究授業の実践とティームティーチング授業の評価（7月、11月）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

○生徒の意識調査及び生徒による授業評価の実施（学期ごと）

第1回と第2回調査結果から、「英語を聞いてどの程度内容がわかりますか」という設問において「ほとんどわかる・ある程度わかる」と回答した生徒が74%から79%に向上した。オールイングリッシュによる授業の成果と捉えることができる。「英語を使ってどの程度書くことができますか」という設問については「書けないところがある」と返答した生徒が32%おり、他の技能と比較して苦手意識をもつ生徒が多く見られた。

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

第1回英語検定では前年度を上回る人数が受験し、合格率は88.8%であった（昨年度76.5%）。第2回検定は1・2年生の合格率が81.8%で、昨年度の75%を上回った。また、この検定では3年生41名のうち31名が3級を受験し（75.6%）、昨年度の47.9%の受験に留まった受験率を大きく上回った。3級の合格率は昨年度並みであったが、受験志願者は増加しており、自ら高いレベルの級に挑戦しようとする姿が見られるようになってきている。

なお、今年度全体平均より大きく下回っていたのが「語彙・熟語・文法」の分野であったため（-13%）、ライティングの量を増やし補強を図っていく。

○秋田県版スピーキングテストⅠ・Ⅱの実施及びその検証と活用（9月、2月）

3年生のスピーキングテストは、教科書の題材を話題としALTと一対一で実施した。ビデオ記録を残し、テスト後にALTと一緒に評価をする場をもつことができた。

○定期テスト、パフォーマンステスト、県学習状況調査等の結果の検証と活用（学期ごと／県学習状況調査12月）

定期テストの結果を受けて行った補充学習は、今後も継続していく。県学習状況調査については、通過率の低かった設問を授業で取り上げて回復を図ることはもちろん、誤答を分析して授業改善につなげていきたい。

パフォーマンステストについては、ビデオ等に記録し、一人一人の変容を蓄積して評価に生かしたり、次年度の当該学年にモデルとして提示したりするなど活用を図りたい。

○研究授業の実施とチームティーチング授業の評価（研究授業7月）

7月の研究授業は2年生で行い、チームティーチング（英語教員2名、ALT）で話すことに焦点を当てた。授業後の協議会では、「生徒が英語を聞いて理解する場面が十分に保証されている点が良い（オールイングリッシュの実践）」「T1とT2を入れ替えることにより、たくさんの先生の様々な英語を聞く場面が増えるといい」などの指導助言をいただいた。課題としては、コミュニケーション活動における役割分担（質問者、応答者など）が不明瞭だったことなどが挙げられた。

○小・高校生との交流学习の振り返りと連携の在り方の検証（教師評価）（学期ごと）

小学生との交流の場として、昨年度に引き続き校内英語暗唱弁論大会を設定した。しかし、交流の時間を十分に確保できなかったため、小学校教員との事前打ち合わせを十分に行い、児童生徒の英語でのやりとりを増やすなどの工夫をしていきたい。また、小学生のスピーカーがいると相互の刺激になることから、来年度の計画を立てる際に検討していきたい。

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

教師側の評価と生徒自身の評価には捉え方に差があることから、生徒への説明や評価の仕方等については再検討する必要がある。来年度は、小学校のリスト活用方法と足並みをそろえながら、生徒自身が「できるようになったこと」を実感しながら自己評価をできるようにしていきたい。

○授業公開（11月）

11月の公開研究会は2年生で行い、生徒が作成した英字新聞を発表し、その内容について英語で問答し合う授業を行った。未習の語彙や文法を用いた表現が多く、レベルの高い内容の新聞となった反面、英語で十分に問答する場面が確保できなかったことが大きな課題であった。しかし一方で、生徒が作成したエッセイを教材として授業で用いることの可能性、発展性が見出すことができ、今後はそれを用いながらいかにコミュニケーション活動を発展させていくかについて研究を深めていきたい。

第三年次 ○生徒の意識調査及び生徒による授業評価の実施（学期ごと）

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

○秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用（9月、2月）

○定期テスト、パフォーマンステスト、県学習状況調査等の結果の検証と活用（学期ごと／県学習状況調査12月）

○研究授業の実施とチームティーチング授業の評価（研究授業7月）

○小・高校生との交流学习の振り返りと連携の在り方の検証（教師評価）（学期ごと）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

○授業公開（11月）

第四年次 ○生徒の意識調査及び生徒による授業評価の実施（学期ごと）

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

○秋田県版スピーキングテストI・IIの実施及びその検証と活用（9月、2月）

○定期テスト、パフォーマンステスト、県学習状況調査等の結果の検証と活用（学期ごと／県学習状況調査12月）

○研究授業の実施とチームティーチング授業の評価（研究授業7月）

○小・高校生との交流学习の振り返りと小・中・高連携についてのまとめ（2月）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

○授業公開（11月）

【由利高等学校】

第一年次 ○小・中学校での言語活動に基づく高校での言語活動の在り方及び小・中学校での言語活動の評価方法についての調査研究

○スピーキングテストの実施及びその検証と活用（学期ごと）

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

第二年次 平成27年度の進捗状況・課題

○生徒の意識調査（学期ごと）

前期（7月）と後期（12月）に英語の授業について意識調査を実施した。調査項目①「ペアワーク、グループワークなどの意義を見出し、前向きに取り組んでいる。」、②「将来（旅行や仕事、研究活動、異文化交流など）の役に立つ内容・活動であると思う。」という質問に対し、①に関しては「とても当てはまる」と答えた生徒が94%、②に関しては「とても当てはまる」と答えた生徒が65%という結果であった。

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

本年度の英語検定は2回終了しており、各回で2級・準2級・3級の受験があった。2級の合格率が振るわず、生徒に基礎学力を身に付けさせ、一次試験を合格できるよう指導していく必要がある。

第3回は、2級49名、準2級154名、3級60名、合計263名の生徒が受験を予定している。学年の内訳は1年185名、2年68名、3年10名である。

○スピーキングテストの実施及びその検証と活用（学期ごと）

1年生は身近な話題についてのスピーチ、2年生はスピーチに加えてALTとの一対一でのインタビューテストも実施している。評価基準は、A（とても意欲的に自己表現しようとしている）、B（意欲的に自己表現している）、C（なかなか自己表現しようとする姿勢が見られない）と3段階を設定し、教員の共通理解の下で行っている。大部分の生徒がAもしくはBの評価である。スピーキングテストにおける評価は定期考査において「関心・意欲・態度」の評価の一部として、点数化している。

○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

前期の評価は各学年で実施済みである。後期は3年生が1月末に、1、2年生は3月に行い、その後にリストの見直しを図っていく。

○研究授業の実施（研究授業10月）

10月にコミュニケーション英語Ⅰの研究授業を行った。オールイングリッシュで、生徒の英語によるコミュニケーションを促すというねらいで実施した。強化地域内の小・中学校、また県内の高校より参観があり、小・中・高の各校種で目指すべき学力等について意見交換をする貴重な機会となった。

第三年次 ○生徒の意識調査（学期ごと）

○外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）

○スピーキングテストの実施及びその検証と活用（学期ごと）

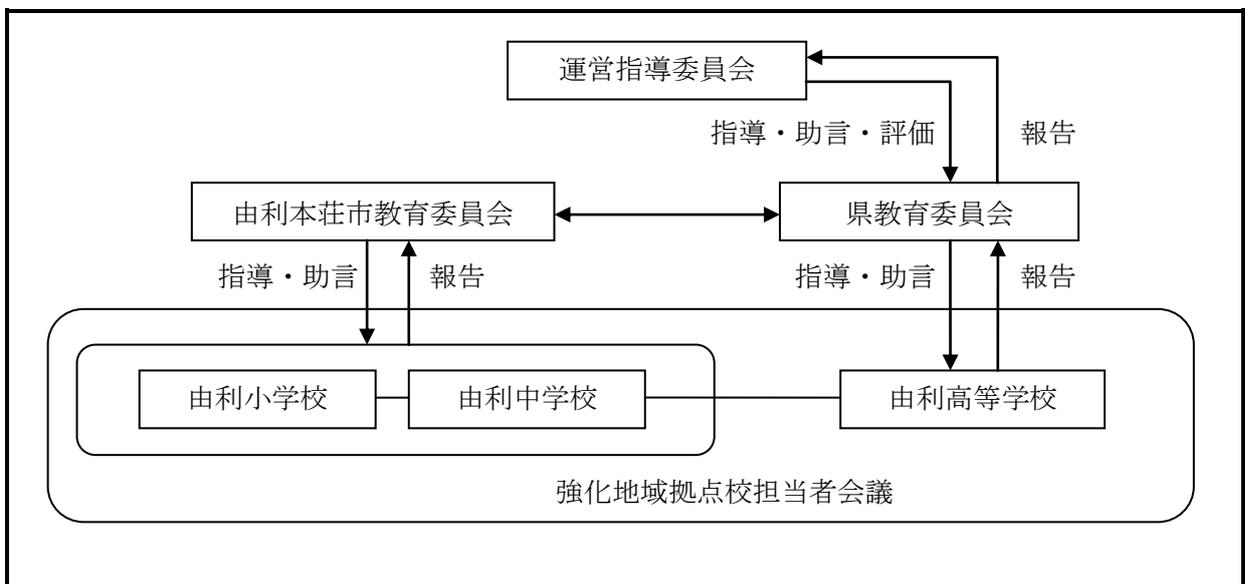
○学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）

○研究授業の実施（研究授業7月）

- 授業公開（10月）
- 第四年次 ○由利中学校出身生徒と他校出身の生徒間における4技能習得の差違に係る調査研究
- 生徒の意識調査（学期ごと）
- 外部検定試験受験結果の検証と活用（7月、11月、2月）
- スピーキングテストの実施及びその検証と活用（学期ごと）
- 学習到達目標リスト（CAN-DO形式）を基にした評価（学期ごと）
- 研究授業の実施（研究授業7月）
- 授業公開（10月）

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

運営指導委員会を開催し、拠点地域における研究推進及び教育課程編成等について現状を把握し、指導助言を行う。また、各研究校における授業研究会に参加し、学習指導及び評価等について指導助言を行う。

→ 第1回運営指導委員会を5月に開催し、昨年度の各研究校における成果と課題及び今年度の研究の方向性について確認した。

研究授業は公開研究会を含め全5回実施した。全ての研究会に運営指導委員が参加し、学習指導及び評価等について指導助言を行った。

今年度の総括は、2月の運営指導委員会で行う。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月		
5月		・第1回運営指導委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教養大学留学生との交流（由利小学校） ・校内英語暗唱弁論大会（由利中学校）における国際教養大学留学生との交流（※由利小学校6年生も参観） ・英語教育推進リーダー中央研修参加（由利小学校） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業研究会（由利小学校） ・第2回授業研究会（由利中学校） ・NIE全国大会秋田大会（由利中学校3年生） 	・授業研究会における指導助言
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委主催小学校外国語活動教員研修参加（由利小学校） ・国際教養大学主催英語授業力ブラッシュアップ研修参加（由利小学校） ・第1回英語指導に関する実技研修（由利小・中学校） ・第1回強化地域拠点校担当者会議 ・第1回英語検定試験結果の分析・検証と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会における講師 ・研修会における講師
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・由利高校教員とのティームティーチングによる英語補習授業（由利中学校） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・和文化教育全国大会秋田県由利本荘市大会（由利小学校5年生） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進リーダー中央研修参加（由利小学校） ・スピーキングテストの実施と結果分析（由利中学校） ・由利小学校授業研究会指導案検討への協力（由利中学校） ・第3回授業研究会（由利小学校）※公開研究会 ・第4回授業研究会（由利高等学校） 	・授業研究会における指導助言
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回授業研究会（由利中学校）※公開研究会 ・国際教養大学留学生との交流（由利小学校） ・由利中学校区小・中授業実践交流会（由利中学校） ・北海道登別市立富岸中学校職員視察（由利中学校） ・山梨県西八代郡市川三郷町小・中学校職員視察（由利小学校） ・第2回強化地域拠点校担当者会議 	・授業研究会における指導助言
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・由利中学校区小・中授業実践交流会（由利中学校） ・国際教養大学留学生との交流（由利小学校・2回実施） ・第2回英語検定試験結果の分析・検証と活用 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回英語指導に関する実技研修（由利小・中学校） ・国際教養大学留学生との交流（由利中学校） 	・研修会における講師

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教養大学留学生との交流（由利中学校） ・先進校視察（京都教育大学附属桃山小学校・中学校） ・第3回強化地域拠点校担当者会議 ・第3回英語検定試験結果の分析・検証と活用 ・国際教養大学留学生との交流（由利高等学校） ・由利小学校への出前授業（由利高等学校） ・由利小への出前授業（由利中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営指導委員会
3月		
<p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際教養大学留学生等との交流は、学年ごとに実施する予定。上記の交流会を含め、回数は計14回の予定。 		